

大正十四年四月十五日第三號（郵政特許認可）四月二十五日（第一日發行）
 昭和二年三月三十日發行 京都市區六大學部（郵外）

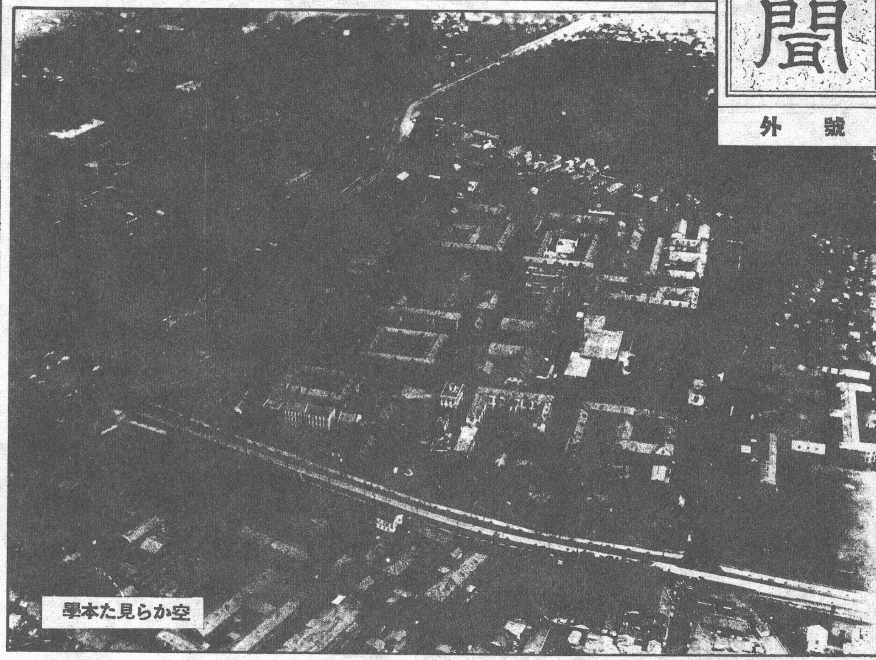
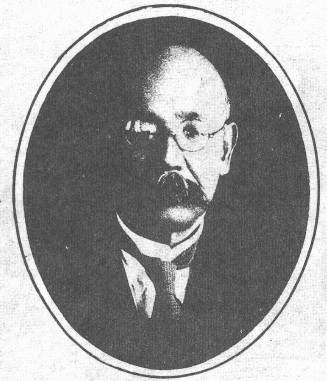
京都帝國大學新聞

外 號

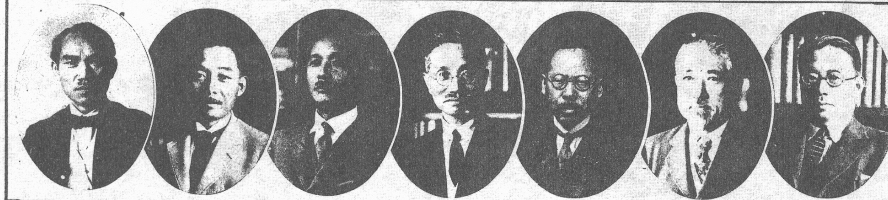
總長 新城新藏博士



前總長 荒木實三郎博士

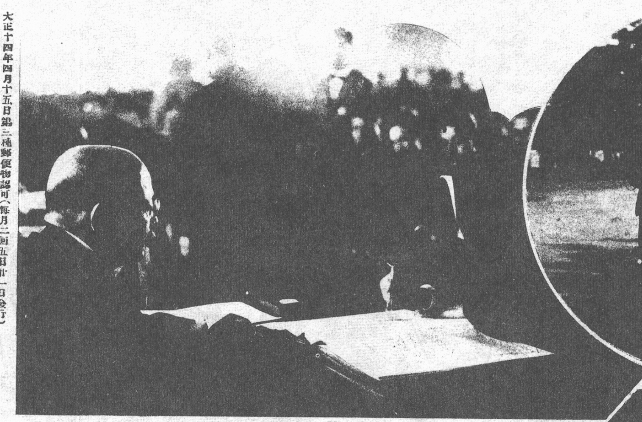


空から見た學本



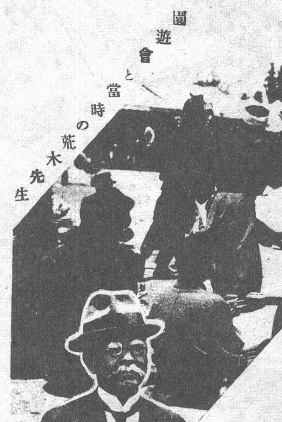
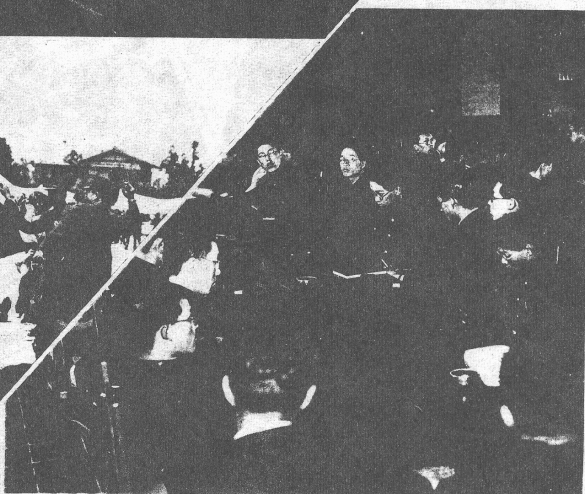
長部學農崎竹 長部學濟經島小 長部學理野石 長部學文井藤 長部學工邊渡 長部學醫村今 長部學法岡賀島

日の學入



宣慰式

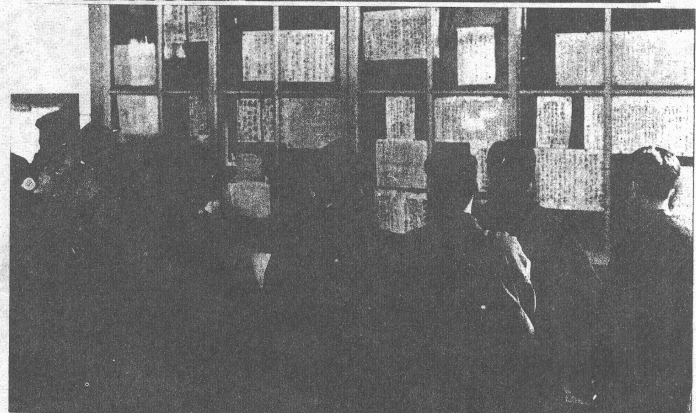
河上博士の送別會



荒木先生の當會と遊園



「求人」の揭示を見つめる人々



大正十四年四月十五日第三號（郵政特許認可）四月二十五日（第一日發行）
 昭和二年三月三十日發行 京都市區六大學部（郵外）



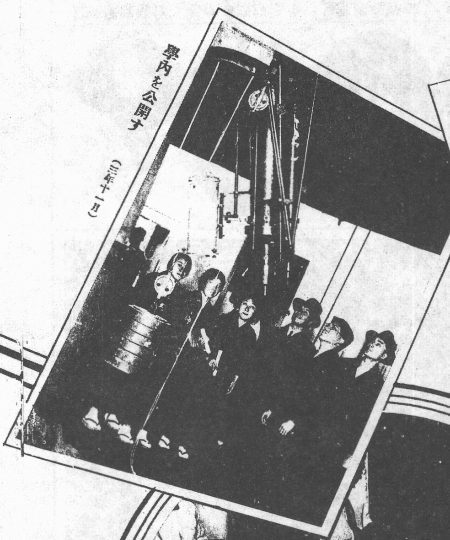
御大典に際し本部舊館に
文部省臨時出張
(四年十月)

三の出思が
年 一七二九一
間 〇三九一



アムゼン氏来る (四年十月)

新館より見た様子 (四年十一月)



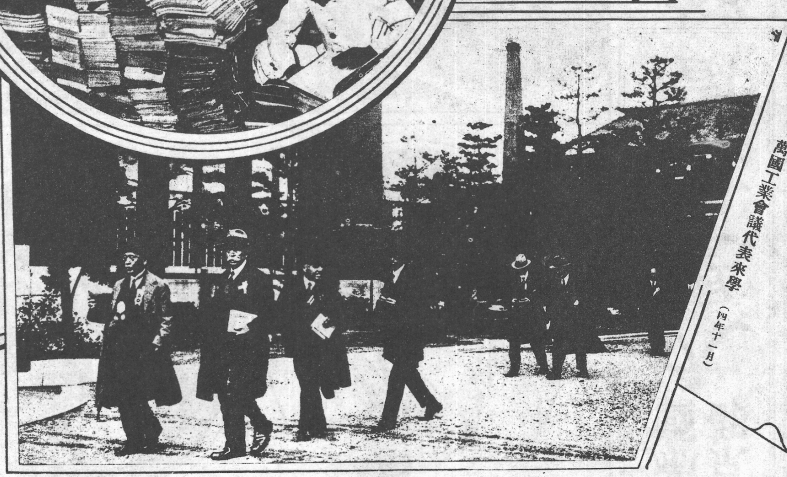
農学部
(四年十月)



皇土陛下理農部臨時研究所へ行幸あらせらる
(四年六月)



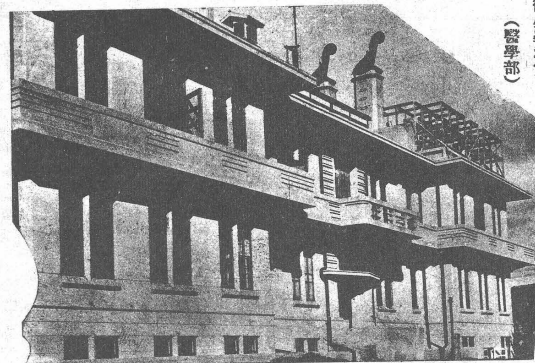
経済學部で
マイヤー文庫の整理
(四年八月)



萬國工業會議代表來學
(四年十二月)

花山天文臺
(理學部)

衛生學教室
(醫學部)



樂友會館



教室と研究室の一部
(法・經兩學部)



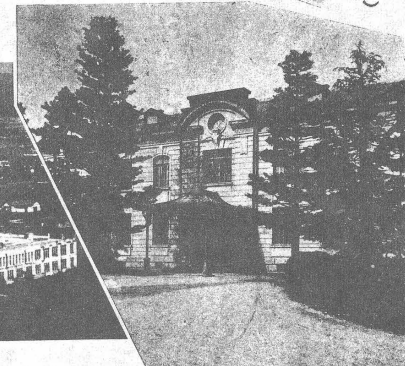
陳列館
(文學部)



(部學工) 室教他其學築建



景全部學農



昭和五年三月京都帝國大學卒業生

法學部 四〇五
文學部 九〇六
醫學部 一〇六
理學部 六〇六
農學部 八四
計 一、二六七
(選九) 七四
(選科八) 二七六
合計 一、二七六

本學卒業式

時・けふ午前十時
處・本部階上廣間
式次第は左の通り
▽卒業生着席
▽職員着席
▽來賓着席
▽證書授與
▽總長告示
▽卒業生總代答辭

卒業生諸子を送る

總長 新城 新藏

私は此頃勉めて諸方の卒業式に列席した、中學校高等專門學校私立大學等の卒業式に列し、しかも多くの場合卒業生に對して希望を述べ其前途を祝福したのであつたが、今や我が大學から約千三百名の卒業生諸子を送るに當り、私は以上の多くの場合に述べた趣旨を最も強き意味にて反復したいと思ふ、それは帝大卒業生は初めて小學に入りて以來少くとも十六七年の長き期間の教養を受けて居り、其修養時期の長きことに於て最も恵まれた人々であるがためである。

思ふに人の人たる所以、一般の生物界から群を抜いて傑出するに至つた所以は常に合理的に考へて事を處するといふこ

とであり、これは又全く人類に於ては其子供の時期從つて其修養の時期が他の動物に比して甚しく長いといふことの結果に外ならぬ、幾千萬年の人類發達史、幾千年以來の文化發達史は明かにこれを證明して居る。

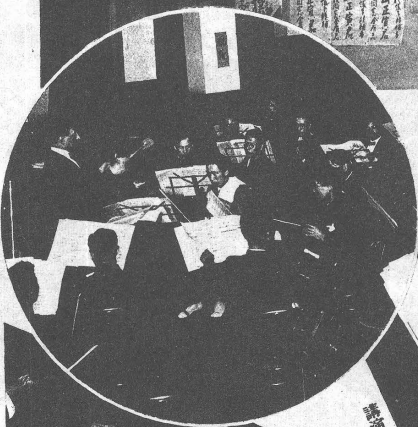
十六七年以上の長き修養の期間を終り今や將に學窓を出でんとする諸子は、當然文化發達の先頭に立つべき地位にあるので、多年修養し得たる學術と人格とを基礎として一世を指導すべき重き任務を貢ふものといはなければならぬ。

近時世上に喧傳さるゝ智識階級の就職難や又は所謂インテリゲンチヤ蔑視論の如きはいづれも齒牙にかくるに足らぬ、是等の小葛藤を打開し人類百年の大計のために邁進することこそ諸子の真使命でなければならぬ、卒業生諸子に對し世の期待する所は頗る大きい。

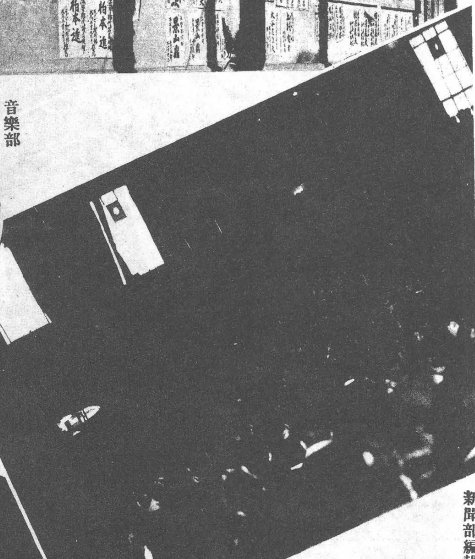
諸子を送るに際して其健康を祈り其將來を祝福する所以である。

學友會の
諸生活(1)

代議員選挙のポスター―



音樂部



新聞部編輯室



講演部



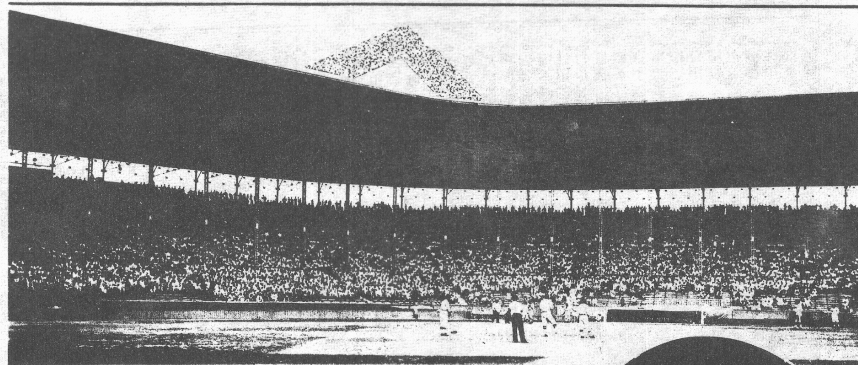
共濟部の音楽會に演出す諸嬢

—(9)—

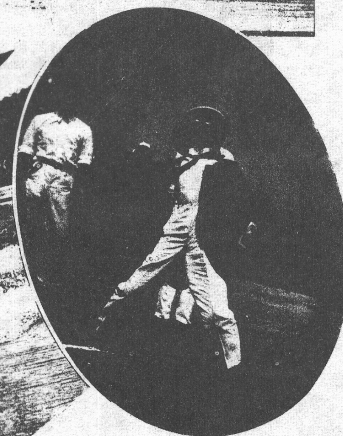
發行		日一廿	回二	月二
發行編輯兼印刷人	所行發	科書廣	價定	
入山雄一	京都帝國大學 學友會 編輯部 振振堂 大坂七三二八九	五體活字一行金六十兩 金額の二倍紙版買の 指定は二割増	一 部	一 五 円錢 (郵後五兩)

京都製玉堂印行

(8)



球野の會大專高



式球始の生先木荒

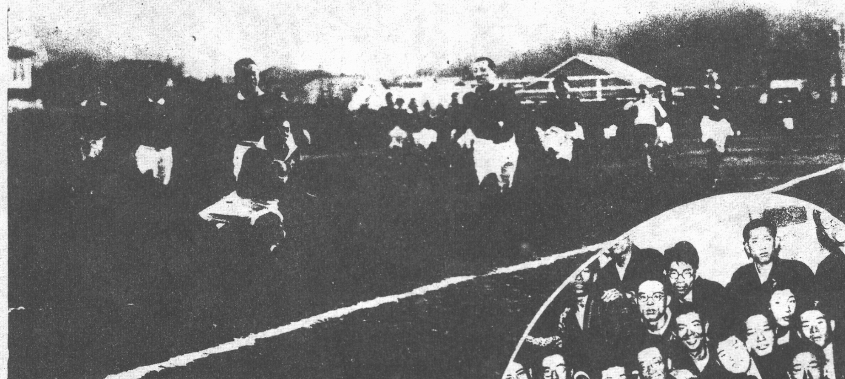


水泳

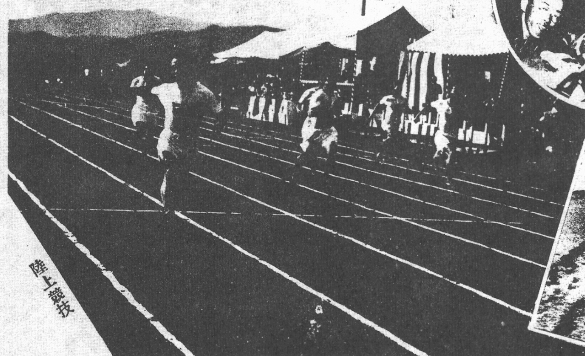


東大戦へ！

本學の至寶ラグビー



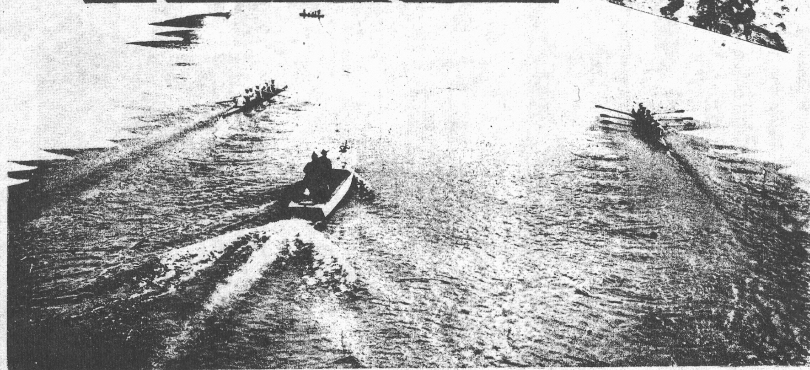
スキー合宿



登山道



遊樂



ボートレース